



ご挨拶

七友会会長 遠藤 隆

七友会会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

長く続いたコロナ禍もようやく出口が見え始め、マスクをしている人も少しずつ減っているようです。岩手大学がある盛岡は、アメリカのニューヨークタイムズ紙が、世界で行きたい街の第2位と紹介してくれたおかげで、今年のゴールデンウィークは各地から観光客が来て、大変な賑わいとなりました。特にじゃじゃ麺発祥の店白龍や、コッペパンで有名な福田パン、わんこそばの東家などは長蛇の列が午後3時ころまで続きました。

街の近況報告はこれくらいにして・・・

6月17日に、4年ぶりのリアルによる評議員会が開催され、昨年度の決算や事業報告、また今年度の予算案、事業案がすべて了承されました。昨年度は、1年遅れとなった七友会発足40周年の同窓会が盛大に開催されました。ここに至るまでは、盛岡の会員を中心に会合を重ね、準備を進めてまいりました。それでも、経費は当初予算の3分の1程度の出費に留めながらも、卒業生の手作り感いっぴいの暖かい会となりました。

現行の執行部は、経費節減と次世代の体制作りを急ぐことが求められています。

まず経費につきましては、5年余り前、当時の大学事務から、七友会の出費が多すぎて懸念しているとの指摘を受け、交通費を削減するため盛岡および近郊の在住者で役員を固めました。それまで遠方からわざわざ来盛され、同窓会運営に尽力されてきた前役員の方々には、大変なご苦勞をおかけしたのですが、任せっきりだったという反省も踏まえ、40周年は地元で頑張る成果を上げることが出来ました。また大学からは、コロナ禍などで学生生活が脅かされていること。また大学自体も予算削減で事業の執行に困難をきたすことが増えていて、同窓会への寄付を募ることも増えてくると言われています。他学部の同窓会に比べて、七友会は会員数が少ないことや、まだまだ若い会員が多いことから個人寄付は少なく、同窓会の予備費から支出することも多くなると思います。

次に、人材育成ですが、現在の執行部は1期生を中心に、10期以下の高齢者で占めています。このままでは世代交代も覚束ないことから、来年の改選では、少なくとも会長、副会長、総務担当役員は1期生を排除し、もう少し若い世代に任せ、さらにその他の執行部や評議員はもっと若い世代にお願いしようと思っています。そのためには、200人余りの会員がいる盛岡市役所を中心に、県庁や岩手銀行などの地元在住者にお声がけをしていこうと思っています。

来年の評議員会に向けては、財政健全化と新たな体制作りという難しいかじ取りが求められていますが、会員の皆様のご協力とご理解を切にお願いします。